

主催 全国商業高等学校長協会・公益財団法人全国商業高等学校協会
後援 文部科学省・日本公認会計士協会・日本税理士会連合会

第39回 (令和5年度) 全国高等学校簿記競技大会問題 (第2部)

注 意 事 項

- (1) 解答は、すべて解答用紙に記入すること。なお、教科書に基づき日頃学校で指導を受けている記帳の方法によって、正確・迅速・整然と記帳すること。
- (2) 鉛筆および消しゴムで消せるボールペンの使用は認めない。
- (3) 机上には、競技番号札・ボールペン（黒・赤）・電卓・そろばん・定規・タイマー以外おかないこと。
なお、物品の貸借はしないこと。
- (4) 赤記すべきところは、赤のボールペンを使用すること。
- (5) 記帳したものを訂正する場合は、教科書に基づき日頃学校で指導を受けている方法によって訂正すること。
なお、訂正印は省略する。

5 (24点)

1. 下記の財務諸表により次の比率を計算しなさい。ただし、求めるパーセントまたは回数は、小数第1位を四捨五入すること。

- (1) 固定比率 (2) 総資本利益率 (税引後当期純利益を用いる)
 (3) 自己資本比率 (4) 商品回転率 (売上原価と平均有高を用いる)

貸借対照表

大分産業株式会社		令和5年3月31日		(単位：千円)	
現金預金	525,994	買掛金	2,860,292		
売掛金	4,286,732	短期借入金	299,940		
クレジット売掛金	743,525	所得税預り金	7,334		
有価証券	392,420	未払費用	5,650		
商品	398,751	前受収益	9,948		
短期貸付金	822,123	未払法人税等	592,836		
従業員立替金	6,982	長期借入金	2,588,773		
未収収益	5,173	退職給付引当金	1,399,227		
建物	3,695,411	資本金	7,200,000		
備品	2,631,682	資本準備金	1,249,665		
土地	3,698,171	利益準備金	552,980		
建設仮勘定	1,500,000	新築積立金	591,510		
特許権	44,254	別途積立金	5,312		
長期貸付金	658,782	繰越利益剰余金	2,046,533		
	()		()		

損益計算書

大分産業株式会社		令和4年4月1日から令和5年3月31日まで		(単位：千円)	
I 売上高					36,350,820
II 売上原価					
1. 期首商品棚卸高	369,699				
2. 当期商品仕入高	24,235,227				
合計	()				
3. 期末商品棚卸高	()			()	
売上総利益				()	
III 販売費及び一般管理費					
1. 給料				7,745,185	
2. 減価償却費				1,460,808	
3. 退職給付費用				98,331	
4. 保険料				99,935	
営業利益				()	
IV 営業外収益					
1. 受取利息				5,810	
2. 有価証券評価益				8,561	
V 営業外費用					
1. 支払利息				2,571	
経常利益				()	
VI 特別損失					
1. 災害損失				800,650	
税引前当期純利益				()	
法人税・住民税及び事業税				592,836	
当期純利益				()	

2. 有価証券に関する下記の資料にもとづいて、次の金額を求めなさい。ただし、当期は2022年4月1日から2023年3月31日までであり、有価証券に関する取引は資料のみである。また、利息の計算は月割りによる。なお、本間は税効果会計を考慮しないものとする。

- (1) 当期末の損益計算書に記載する「有価証券利息」
- (2) 当期末の貸借対照表に記載する「投資有価証券」

資 料

銘柄	保有目的	前期末時点での時価	備考
A社社債	業務提携	¥100につき¥101	2018年6月1日に額面総額¥6,000,000を発行と同時に平価で購入している。 償還期限5年 利率年 <input type="text"/> % 利払い 年2回5月末, 11月末
B社株式	長期利殖	1株¥16,100	2019年7月1日に200株(1株¥16,000)に付随費用を含めた金額を支払い購入している。
C社株式	支配目的	1株¥17,500	2020年8月1日に50,000株を¥877,500,000支払い購入している。当社が意思決定機関を支配している。
D社社債	満期保有	¥100につき¥101	2021年4月1日に額面¥2,000,000を発行と同時に¥100につき¥ <input type="text"/> で購入している。 償還期限5年 利率年0.31% 利払い 年2回3月末, 9月末

2022年

- 4月1日 期首において必要な仕訳を行った。ただし、前期の有価証券利息¥37,000のうち¥8,000は見越し計上したものである。また、当期首時点におけるその他有価証券評価差額金勘定残高は¥40,000(貸方)である。
- 5月31日 保有するA社社債の利払日のため、利息を受け取った。
- 6月30日 保有するB社株式より1株あたり¥500の配当を受けた。
- 9月30日 保有するD社社債の利払日のため、利息を受け取った。
- 11月30日 保有するA社社債の利払日のため、利息を受け取った。

2023年

- 3月31日 決算にあたり保有するA社社債を¥100につき¥101.5で評価替えするとともに経過分の利息を見越し計上した。
- 3月31日 決算にあたり保有するB社株式を1株¥16,150で評価替えした。
- 3月31日 保有するD社社債の利払日のため、利息を受け取るとともに、決算にあたり、償却原価法(定額法)によって評価した。

6 (24点)

乾物の卸業を営む神奈川商店の次の資料により各問いに答えなさい。

ただし、i 商品売買はすべて掛けで行っており、支払期限までにインターネットバンキングで決済している。

ii 諸掛はすべて運送会社に支払った当店負担の引取運賃であり、仕入価額に含めて処理している。

- (1) 6月末における昆布の数量
- (2) 6月の売上高
- (3) 6月末における熊本商店に対する売掛金残高
- (4) 6月末における鹿児島商店に対する買掛金残高
- (5) 先入先出法を採用した場合の6月末における鰹節の次月繰越高
- (6) 移動平均法を採用した場合の6月末におけるすべての商品の次月繰越高

資 料

I 6月1日における前月繰越高

商品有高帳	昆 布	¥312,000	(200箱×@¥1,560)
	鰹 節	¥260,000	(260箱×@¥1,000)
	海 苔	¥736,000	(800箱×@¥ 920)
売掛金元帳	宮城商店	¥390,000	(支払期限6月12日)
	鳥取商店	¥840,000	(支払期限6月9日)
	熊本商店	¥420,000	(支払期限6月8日)
買掛金元帳	北海道商店	¥210,000	(支払期限6月5日)
	鹿児島商店	¥255,000	(支払期限6月15日)
	長崎商店	¥180,000	(支払期限6月9日)

II 6月中の取引

日付	摘要	取引先	品名	金額	数量(箱)	単価	諸掛	販売・購入日	支払期限
6/1	仕入れ	北海道商店	昆布	¥1,232,000	800	¥1,500	¥32,000	—	6/28
6/2	掛金支払い	北海道商店	昆布	¥ 210,000	140	¥1,500	—	5/15	6/5
6/5	掛金回収	鳥取商店	鰹節	¥ 840,000	600	¥1,400	—	5/5	6/9
6/6	掛金回収	熊本商店	海苔	¥ 420,000	350	¥1,200	—	5/16	6/8
6/7	掛金支払い	長崎商店	海苔	¥ 180,000	200	¥ 900	—	5/17	6/9
6/8	掛金回収	宮城商店	昆布	¥ 390,000	150	¥2,600	—	5/23	6/12
6/12	掛金支払い	鹿児島商店	鰹節	¥ 255,000	300	¥ 850	—	5/29	6/15
6/13	仕入れ	長崎商店	海苔	¥ 752,000	800	¥ 900	¥32,000	—	7/4
6/14	売り上げ	鳥取商店	昆布	¥1,040,000	400	¥2,600	—	—	7/4
6/16	売り上げ	熊本商店	昆布	¥ 910,000	350	¥2,600	—	—	7/22
			鰹節	¥ 294,000	210	¥1,400	—	—	
6/19	仕入れ	鹿児島商店	鰹節	¥ 472,500	450	¥ 850	¥90,000	—	7/18
6/20	仕入れ	長崎商店	海苔	¥ 731,500	700	¥1,000	¥31,500	—	7/18
6/21	仕入れ	北海道商店	昆布	¥ 778,000	500	¥1,500	¥28,000	—	7/17
6/22	売り上げ	熊本商店	海苔	¥2,400,000	2,000	¥1,200	—	—	7/25
6/23	掛金支払い	北海道商店	昆布	¥1,200,000	800	¥1,500	—	6/1	6/28
6/26	売り上げ	鳥取商店	鰹節	¥ 350,000	250	¥1,400	—	—	7/28
			海苔	¥ 120,000	100	¥1,200	—	—	
6/27	仕入れ	鹿児島商店	鰹節	¥ 515,000	500	¥ 850	¥90,000	—	7/28
6/28	売り上げ	宮城商店	昆布	¥1,560,000	600	¥2,600	—	—	7/31
			鰹節	¥ 280,000	200	¥1,400	—	—	
			海苔	¥ 216,000	180	¥1,200	—	—	
6/29	掛金支払い	長崎商店	海苔	¥ 720,000	800	¥ 900	—	6/13	7/4
6/30	掛金回収	鳥取商店	昆布	¥1,040,000	400	¥2,600	—	6/14	7/4

7 (28点)

1. 下記の資料によって、2023年3月31日（連結決算日）における次の連結貸借対照表の（ア）から（エ）の金額を求めなさい。

P社		連結貸借対照表		2023年3月31日		(単位：千円)	
現金預金	21,992	買掛金	()				
売掛金	(ア)	貸倒引当金	()				
商品	(イ)	資本金	()				
土地	()	利益剰余金	(ウ)				
のれん	361	非支配株主持分	(エ)				
投資有価証券	()						
	()						

資料

I 2023年3月31日における個別財務諸表

損益計算書

2022年4月1日から2023年3月31日 (単位：千円)

勘定科目	P社	S社	勘定科目	P社	S社
売上原価	58,740	20,740	売上高	87,850	30,500
販売費及び一般管理費	23,502	8,216	受取利息	12	—
支払利息	—	12	受取配当金	280	—
その他費用	3,220	832	固定資産売却益	—	200
当期純利益	2,680	900			
	88,142	30,700		88,142	30,700

株主資本等変動計算書

2022年4月1日から2023年3月31日 (単位：千円)

	資本金		利益剰余金	
	P社	S社	P社	S社
当期首残高	29,000	6,200	2,990	1,440
当期変動額 剰余金の配当			△ 2,400	△ 400
当期純利益			2,680	900
当期末残高	29,000	6,200	3,270	1,940

貸借対照表

2023年3月31日 (単位：千円)

勘定科目	P社	S社	勘定科目	P社	S社
現金預金	16,382	5,610	買掛金	7,841	2,940
売掛金	7,900	3,000	貸倒引当金	141	60
商品	2,690	1,730	借入金	—	870
貸付金	870	—	資本金	29,000	6,200
土地	6,430	1,670	利益剰余金	3,270	1,940
投資有価証券	560	—			
子会社株式	5,420	—			
	40,252	12,010		40,252	12,010

II P社は、2022年3月31日にS社の発行済株式数の % を5,420千円で取得し、支配を獲得した。

同日の子会社の貸借対照表は次のとおりであった。なお、土地の評価額は3,030千円であり、他の諸資産および諸負債の時価は帳簿価額と等しかった。

貸借対照表

S社		2022年3月31日		(単位：千円)	
諸資産	7,740	諸負債	2,770		
土地	2,670	資本金	6,200		
		利益剰余金	1,440		
	10,410		10,410		

- Ⅲ のれんの償却は定額法により償却する。償却期間は20年とする。
- Ⅳ P社の売上高のうち10,350千円は、S社に対するものである。また、P社はS社へ販売するさい外部への売価の10%引きした金額で販売している。
- Ⅴ S社の期末商品のうち、P社から仕入れた商品が855千円あり、未実現利益が含まれている。
- Ⅵ P社の売掛金の期末残高のうち□千円はS社に対するものである。また、P社ではS社に対する分を除いた売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を設定している。
- Ⅶ P社はS社に870千円を貸し付けており、それにより利息12千円を受け取っている。
- Ⅷ 当期にS社は土地1,000千円をP社に1,200千円で売却し、固定資産売却益200千円を計上している。

2. 本店集中計算制度を採用している茨城商店（個人企業 決算年1回 12月31日）は、本店のほかに、A支店、B支店、C支店を開設している。下記の資料によって、次の金額を求めなさい。

- (1) 12月31日の本店のB支店勘定残高とB支店の本店勘定残高の一致額
- (2) 12月31日の本店のC支店勘定残高とC支店の本店勘定残高の一致額
- (3) 本支店合併後の買掛金

資 料

I 12月26日における元帳勘定残高（一部）

	本 店	A支店	B支店	C支店
売 掛 金	¥1,820,000	¥1,080,000	¥ 798,000	¥ 645,000
買 掛 金	¥1,360,000	¥ 840,000	¥ 512,000	¥ 394,000
A 支 店	¥ 678,000 (借方)	———	———	———
B 支 店	¥ 567,000 (借方)	———	———	———
C 支 店	¥ 456,000 (借方)	———	———	———
本 店	———	¥ 678,000 (貸方)	¥ 567,000 (貸方)	¥ 456,000 (貸方)

II 12月27日から決算日までの本支店間および支店相互間の取引

商品送付額		現金送金額	
本店からA支店へ	¥110,000	A支店から本店へ	¥100,000
本店からB支店へ	¥176,000	B支店から本店へ	¥132,000
本店からC支店へ	¥165,000	C支店から本店へ	¥143,000
A支店からB支店へ	¥ 66,000	B支店からA支店へ	¥ 50,000
B支店からC支店へ	¥ 88,000	C支店からB支店へ	¥ 78,000
C支店からA支店へ	¥ 99,000	A支店からC支店へ	¥ 85,000

III 12月27日から決算日までのその他の取引

- ① A支店の買掛金¥158,000を本店が現金で支払った。
- ② B支店の広告料¥138,000を本店が現金で立て替え払いした。
- ③ C支店の買掛金¥69,000をB支店が現金で支払った。

IV 12月27日から決算日までの外部取引

	本 店	A支店	B支店	C支店
掛け売上高	¥480,000	¥396,000	¥296,000	¥189,000
掛け仕入高	¥300,000	¥240,000	¥197,000	¥155,000

8 (24点)

1. 個別原価計算を採用している山梨製作所の下記の資料と取引によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 製造指図書#1の製品単価
- (2) 製造間接費配賦差異（借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方を○で囲むこと。）
- (3) 変動費率
- (4) 操業度差異（借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方を○で囲むこと。）

資 料

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	200個 @¥3,100	¥ 620,000
工場消耗品	340〃 〃 〃 50	¥ 17,000
仕 掛 品	(製造指図書#1)	¥ 3,127,000

- ii 素材の消費高の計算は移動平均法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算には、作業時間1時間につき¥1,300の予定賃率を用いて計算し、消費賃金勘定を設けて記帳している。
- iv 製造間接費は直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

年間製造間接費予定額（予算額）	¥11,880,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	26,400時間

- v 製造間接費については公式法変動予算により予算を設定して予定配賦を行っている。
- vi 単位あたりの変動費と月間の固定費は高低点法により過去1年間における実際の原価データから正常な操業度の範囲内（2,000時間～2,300時間）で算出している。

月	操業度	原価発生額	月	操業度	原価発生額
6月	1,700時間	¥ 801,000	12月	2,200時間	¥ 923,000
7〃	2,250〃	〃 965,200	1〃	2,150〃	〃 918,000
8〃	2,000〃	〃 944,000	2〃	2,280〃	〃 975,840
9〃	2,600〃	〃 1,094,000	3〃	2,100〃	〃 970,000
10〃	2,050〃	〃 863,000	4〃	1,900〃	〃 910,000
11〃	2,120〃	〃 901,000	5〃	2,300〃	〃 1,013,000

取 引

6月 8日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	600個 @¥3,200	¥1,920,000
工場消耗品	800〃 〃 〃 50	¥ 40,000

12日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材600個を消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額	¥3,410,000	
うち、控除額	所得税 ¥262,000	健康保険料 ¥136,000

26日 A製品（製造指図書#1）400個が完成した。なお、A製品の賃金予定消費高と製造間接費予定配賦額を、次の作業時間によって計算し、原価計算表に記入した。ただし、賃金予定消費高と製造間接費予定配賦額を計上する仕訳は、月末に行っている。

製造指図書#1 1,100時間

- 30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は140個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）
- ② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。
製造指図書#1 1,100時間 製造指図書#2 1,000時間 間接作業 200時間
- ③ 健康保険料の事業主負担分¥136,000を計上した。
- ④ 当月の製造経費消費高を計上した。
外注加工賃 ¥170,000（製造指図書#2） 電 力 料 ¥135,000
減価償却費 216,000 雑 費 9,000
- ⑤ 上記②の直接作業時間によって、製造間接費を予定配賦した。
- ⑥ 当月の賃金実際消費高¥2,971,000を計上した。
- ⑦ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。
- ⑧ 製造間接費の予定配賦額と実際配賦額との差額を、製造間接費配賦差異勘定に振り替えた。

2. 次の資料により、製造指図書#1の製造間接費配賦額を直接作業時間法、機械運転時間法、直接材料費法、直接労務費法、直接費法により計算し、配賦額が最大となる方法と最小になる方法の差額を答えなさい。

資 料

- I 製造間接費総額 ¥960,000
- II 直接作業時間および機械運転時間

	直接作業時間	機械運転時間
製造指図書#1	120時間	200時間
製造指図書#2	130時間	280時間
製造指図書#3	150時間	320時間

III 原価計算表 (一部)

	直接材料費	直接労務費	直接経費
製造指図書#1	¥480,000	¥360,000	¥65,000
製造指図書#2	¥720,000	¥390,000	¥76,000
製造指図書#3	¥600,000	¥450,000	¥59,000

3. 標準原価計算を採用している広島製作所の当月における次の資料と製造勘定から、(ア)の金額を求めなさい。なお、製造勘定への記入は、パーシャルプランによっている。ただし、直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

資 料

① 標準原価カード

A製品	標準原価カード		
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	3 kg	¥ 400	¥ 1,200
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	2 時間	¥ <input type="text"/>	¥ <input type="text"/>
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	2 時間	¥ <input type="text"/>	¥ <input type="text"/>
	製品1個あたりの標準原価		<u>¥ 6,000</u>

② 生産データ

月初仕掛品	<input type="text"/> 個 (加工進捗度50%)
当月投入	<u>800 個</u>
合計	<input type="text"/> 個
月末仕掛品	<input type="text"/> 個 (加工進捗度50%)
完成品	<u>1,000 個</u>

③ 実際直接材料費

実際消費数量	2,380 kg
実際単価	¥ 410

④ 実際直接労務費

実際直接作業時間	<input type="text"/> 時間
実際賃率	¥ 920

⑤ 作業時間差異 ¥54,000 (不利)

⑥ 予算差異 ¥76,000 (不利)

⑦ 変動能率差異 ¥36,000 (不利)

⑧ 製造間接費予算 (公式法変動予算)

基準操業度(直接作業時間)	2,000時間
変動費率	¥ 600

製 造

前月繰越 ()	製 品 ()
材 料 ()	諸 口 (ア)
労 務 費 ()	次 月 繰 越 360,000
製造間接費 ()	
()	()

第39回（令和5年度）第2部〔解答用紙〕

5

1.	(1)	(2)	(3)	(4)
	%	%	%	回

2.	(1)	(2)
	¥	¥

6

(1)	(2)	(3)
箱	¥	¥

(4)	(5)	(6)
¥	¥	¥

7

1.	(ア)	(イ)	(ウ)
	千円	千円	千円

(エ)
千円

2.	(1)	(2)	(3)
	¥	¥	¥

8

1.	(1)	(2)
	¥	¥ (借方・貸方)

(3)	(4)
@ ¥	¥ (借方・貸方)

(注意) **8** 1.(2)と(4)の解答は、借方差異の場合は（借方）、貸方差異の場合は（貸方）を○で囲むこと。

2.	¥
----	---

3.	¥
----	---

番号		氏名	
----	--	----	--

5 得点		6 得点		7 得点		8 得点		2部 総得点	
----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	-----------	--

1審		2審		3審	
----	--	----	--	----	--

第39回（令和5年度）第2部〔審査基準〕

5

1.	(1)	(2)	(3)	(4)
	105 %	7 %	60 %	63 回

2.	(1)	(2)
	¥ 37,000	¥ 5,209,600

6

(1)	(2)	(3)
150 箱	¥ 7,170,000	¥ 3,604,000

(4)	(5)	(6)
¥ 807,500	¥ 567,500	¥ 821,350

7

1.	(ア)	(イ)	(ウ)
	10,050 千円	4,192 千円	3,212 千円

(エ)
3,071 千円

2.	(1)	(2)	(3)
	¥ 686,000	¥ 543,000	¥ 3,771,000

8

1.	(1)	(2)
	¥ 12,630	¥ 139,000 (借方・貸方)

(3)	(4)
@ ¥ 230	¥ 22,000 (借方・貸方)

2.	¥ 48,000
----	----------

3.	¥ 399,000
----	-----------

5	4点×6=24点	6	4点×6=24点	7	4点×7=28点	8	4点×6=24点	2部 合計	100点
---	----------	---	----------	---	----------	---	----------	----------	------